

杭打機後部のプラチェーンによる接触防止

平成 25 年度 矢作古川分派施設工事

<工事概要>

本工事は平成 25 年度矢作川整備事業の一環であり、矢作川から分岐する矢作古川の破堤・氾濫による洪水被害を防ぐため、分派施設（堰）を構築する工事である。



<「見える化」概要>

本工事のうちの地盤改良工の固結工において、使用している杭打機（DH608-120M）は本体の後部が見えにくくなっているため、プラチェーンを設置して重機と人との接触を防止するための「見える化」を図っている。

重機に背を向けて作業をしていたり、重機の旋回範囲内に入っていたりした場合に、プラチェーンがあることで重機と接触してしまう前に重機の存在に気が付き、接触を防止することができる。また、プラチェーンが動くことにより意識がいきやすくなり、重機後部に立ち入ることを事前に阻止することができる。

本工事ではこの杭打機を 2 機で施工していたため、作業ヤードも狭く重機同士が近接した状況で作業をしたこともあった。そのため、重機と人との距離が近くなってしまう場面があった。

そのような状況で、本工事ではこのプラチェーンは「見える化」として有効利用された。

